

『亡くなる心得』の本旨について

9月23日発行

PANARION



詳細は、岩谷薫のブログ『Talking with Angels』 西洋墓地の天使像と『笑とる仏』を参照して
いただきたいのですが、(岩谷薫 検索で一番に出ます)

<https://ameblo.jp/kaoruangels/entry-12762299704.html>

(題名は「亡くなる心得 内容を少しまとめます」2022年9月3日。患者を治療する側の読者のコメントも非常に良いものです)

本書の「はじめに」の内容を、こちらでまとめてみたいと思います。

●そもそも現代において、有史以来、人類は億や兆と生死を繰り返してきたにもかかわらず、
生死の理が少しも未だに、全く解っていないのは、オカシスギル??と思わないでしょうか??

『そこには、必ず、億や兆と生死を繰り返してきた人類の記録が存在するハズなのです』
それら世界の古典をまとめ、最先端の量子論からも、生死の本質を人類初で解明したのが、本書なのです。

●現代において、死生の理が、全く解っていない象徴的な動画は、コレに当たります。
NHK『ありのままの最後「命・最後の450日」』で検索してください。

参考 https://www.youtube.com/watch?v=_OH733I5WYE

お忙しい中、かいつまんで御説明いたします。

(勿論、本書「はじめに」においてこの動画の題名や個人名など、詳細は公表しておりません)
ホスピスの医師であり、僧侶でもある、2人の夫婦の夫側が癌で亡くなるまでのドキュメンタリーです。
『言わば、彼らは死のプロ』なのです。にもかかわらず、彼ら(奥さん側)は、死の本質が掴めていない
ばかりに、プロとして悲しい死の迎え方をされます。

2:55 『究極の理想の死』を期待していたナレーターが言うのです

「しかし、目にしたのは、私の想像と大きくかけ離れたものだった」と…

16:29~17:30 で夫は死に際し、2つの大切な遺言を遺しています。

36:30 専門家の妻は、遺言に反し、夫の麻酔を止めて、夫に癌の激痛を与え続けます。

45:17 専門家の妻は、遺言に反し、強制蘇生措置までしました…

46:52 ナレーターに「理想の死なんて最初から無かったのではないかとこの状況で言わせてしまいました

47:33 僧としてプロの妻は、泣き崩れ、骨上げにさえ行けませんでした…

「死の専門家にもかかわらず、妻側が、死について残念ながら理解不足です…」

ただの、「資格としての」専門家の、ありがたさを考えさせる動画であります。死が理解できていません。

●現代でも、この状況では、本当に死について困っている人々を救えないと思い、本書をしたためました。
いにしへの賢人達は、既に死について知っているのです。現代人が無視し、気付かなかただけです。

●この『亡くなる心得』は、このようなホスピスや医師、患者、僧侶、老人ホームの職員、老人、
親族が理不尽な死に方をされた御遺族、自殺したがっている人、「何で生まれたのか、何で死ぬのか？」
疑問に思っている人々には、ぜひ必読の書となるハズです。

●私は、SNSが不得意です。この生死の問題に、私は生涯、集中し関わって来たからです。

この問題は必ず「集中が必要」で、SNSの表層だけの繋がりには、気が散じるからです。

よく出版社で言われましたが、SNSが得意じゃないと出版できないと…この認識も完全な間違いです……

良い書籍は書店様の御協力もないと、埋もれてしまいます……

よろしく願いいたします。